

## 別紙1

### オウム真理教（教団）の活動状況

#### 1 教団の概要

##### (1) 主流派及び上祐派について

教団は、麻原彰晃（以下「麻原」という。）に対する絶対的帰依を明示的に強調する主流派（「Aleph」、「山田らの集団」など）と、麻原に絶対的に帰依しながらも、外形上、麻原の影響力を払拭したかのように装い活動する上祐派（「ひかりの輪」）に分かれて活動している。

##### (2) 信徒数

教団は、国内に約1,650人の信徒を擁している。特に、主流派は、組織的な勧誘活動を積極的に展開し、令和元年／平成31年中は、約90人の信徒を新たに獲得した。

##### (3) 教団の施設

国内における教団の拠点施設については、15都道府県に主流派25施設、上祐派6施設の計31施設が存在している。

#### 2 主流派の活動

主流派は、麻原の死刑執行後もこれまでと同様に、在家信徒を対象とした年3回の「集中セミナー」や、麻原の誕生日を祝う「生誕祭」などの各種イベントを開催し、出家信徒が麻原の偉大性を強調する説法を行うなどして、麻原に対する絶対的帰依を扶植する活動を継続している。

また、主流派は、新規信徒の獲得に向けた勧誘活動を、麻原の説く「衆生救済」を実現するための重要な取組と位置付け、教団名や宗教色を秘匿しながら、組織的な勧誘活動に取り組んでいる。

#### 3 上祐派の活動

上祐派は、外形上、麻原の影響力を払拭したかのように装う“麻原隠し”の取組を推進してきたところ、施設内には、依然として麻原と関係のある仏画（釈迦牟尼、観音菩薩、弥勒菩薩）を掲示するなど、今なお麻原の影響下にある実態が確認されている。

また、上祐派は、年3回の「集中セミナー」を開催したり、上祐史浩が聖地と定めた神社仏閣などを訪問する「聖地巡り」を実施したりするなどして、信徒教化を行っている。

以上